

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 13 日現在

機関番号：32606

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23520829

研究課題名(和文)近世天皇・朝廷研究の基盤形成

研究課題名(英文)The project to build up a foundation of the study of tenno chotei, Emperor and Imperial Court, in Pre-Modern Japan

研究代表者

高埜 利彦 (TAKANO, Toshihiko)

学習院大学・文学部・教授

研究者番号：90092254

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：日本近世史研究の諸分野の中で、立ち遅れた分野である近世天皇・朝廷研究の基盤形成を目指した本研究の成果として、合わせて3回の「近世の天皇・朝廷研究大会」を開催し、3冊の大会成果報告集を刊行できたことが特筆される。全国から当該の研究者が集い講演(1回)、シンポジウム(2回)や都合10本の研究報告を行い活発な討論がなされ、その成果を報告書にして大会参加者は勿論、不参加者や各研究機関に送付して共有できたことは、研究の進展に加えて研究基盤の形成に有効であった。

研究成果の概要(英文)：It is asserted that the meetings, 'Kinsei no tenno cho;tei kenkyu taikai', were held 3 times in the project year and 3 reports of research results were published, as the achievement of this project to build up a foundation of the study of tenno chotei, Emperor and Imperial Court, in Pre-Modern Japan, which is the backward part in the fields of this period. The relevant scholars from the whole country assembled and gave a lecture, 2 symposiums, and 10 sessions in total discussing actively. It is beneficial to progress of this study and building up a foundation of it to share those achievements with not only the participants but also nonparticipants and research institutions by sending the reports of research results.

研究分野：人文学

キーワード：日本史 近世史 天皇 朝廷 江戸幕府

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 1945 (昭和 20) 年の敗戦後、日本近世史研究に限るならば、社会経済史研究が熱心に取り組みだした。近世の村落構造や地主制研究に活発に取り組み、近世の天皇や朝廷を研究対象にすることはほとんどなかった。

(2) 1975 (昭和 50) 年頃から、近世の国家論を解明して、近代・現代の天皇制研究に呼応しようとの意識が高まった。近世の公家の日記を素材とし、史料分析して近世の朝廷の位置や役割を解明する研究成果がやっと生まれ出した。すでに戦後 30 年が経過していた。それ以降、近世の朝幕関係論、公家の家職論など研究は進められたが、他の分野に比して、まだ十分な成果が得られたとは言えなかった。

### 2. 研究の目的

(1) 全国的な近世の天皇・朝廷研究大会を開催して研究基盤を充実させる。近世の天皇・朝廷に関する研究者はかなり少数であると言わざるをえない。研究を活発化させ、全国の研究者が交流して共通認識を持ち、研究課題を検討することは、近世の天皇・朝廷研究の進展のために欠くことのできない場となる。さらに、近世の天皇・朝廷研究大会で講演・シンポジウム、個別論題報告と討議を行ったその成果を、大会成果報告集として刊行する。大会参加者のみならず、不参加者や大学・研究機関に報告集を配布して、研究成果の共有化をはかる。

(2) 研究基盤形成のために基盤となる史料集の刊行は意義のあるものになる。すでに『近世朝幕関係法令史料集』(2010年3月)を刊行したが、これを土台にして補充を行なうことを目的にすえた。具体的には門跡寺院(准門跡)である真宗高田派本山の専修寺所蔵の未公開史料調査・研究を行ない、史料集に追加する史料の収集に努める。

### 3. 研究の方法

(1) 近世の天皇・朝廷研究の基盤形成のために研究大会を開催し、大会成果報告集を刊行するために、研究代表者と研究分担者の他に約 20 名近い研究協力者(大学院生等)が、大会実行委員会を編成した。大会のテーマや研究課題・人選や広報などを行ない、大会の運営に当たった上で、成果報告集の編集作業と刊行後の送付作業を行った。

(2) 『近世の天皇・朝廷関係史料集』(仮称) 編集作業のため、史料収集を行った。真宗高田派本山の専修寺門跡(三重県津市一身田)に所蔵される史料の調査・収集の作業を、代表者の勤務する大学院生の協力も得て実施した。専修寺門跡所蔵史料は未整理状態にあるため、まず目録化とマイクロフィルム撮影

を行って収集を図った。

### 4. 研究成果

(1) 平成 23 年度の「近世の天皇・朝廷研究大会」の成果報告集として、『近世の天皇・朝廷研究第 4 号 第 4 回大会成果報告集』(平成 24 年 3 月)を刊行した。講演録として、深谷克己「『日本国』の王権と政道 東アジア法文明圏の視界から」と自由論題報告を論説として、村和明「近世朝廷と三井三井文庫所蔵朝廷関係史料から」、渡辺修「近世の神宮例幣使発遣」、清水光明「朝廷・公家社会と朱子学 天明の京都大火後を中心に」の 3 本を掲載した。

(2) 平成 24 年度の「近世の天皇・朝廷研究大会」の成果報告集として、『近世の天皇・朝廷研究第 5 号 第 5 回大会成果報告集』(平成 25 年 3 月)を刊行した。本大会では「武家伝奏と禁裏小番 中世・近世の比較から」のテーマでシンポジウムを開催し、報告者である、平井誠二「武家伝奏と高家」、田中暁龍「中・近世の禁裏小番と武家昵近衆」、家永遵嗣「室町幕府と「武家伝奏」・禁裏小番」と討論要旨を掲載した。また、自由論題報告を論説として、林大樹「近世公家社会における避諱と改名」、松金直美「東本願寺門跡の関東参向」、三ツ松誠「諸家執奏停止と神祇官」の 3 本を掲載した。

(3) 平成 26 年度の「近世の天皇・朝廷研究大会」の成果報告集として、『近世の天皇・朝廷研究第 6 号 第 6 回大会成果報告集』(平成 27 年 3 月)を刊行した。本大会では「近世後期と幕末の関白・天皇」のテーマでシンポジウムを開催し、報告者である、長坂良宏「近世後期の関白と天皇・院 文政期を中心に」、家近良樹「幕末期の朝廷について 何が言えるのか」のほか、箱石大のコメントを掲載した。また自由論題報告を論説として、許文英「近世後期における隠居大名と公式婚姻 徳島藩蜂須賀重喜を事例として」、栗原佳「近世中期における高家の職務 勅使江戸下向時の火事から尊号一件まで」、石津裕之「近世中後期の二十二社と朝廷 北野社を素材として」、渡辺修「近世儀式伝奏の機能 皇位継承儀式を中心に」の 4 本を掲載した。

(4) 真宗高田派本山の専修寺(三重県津市一身田)調査を、平成 23 年 8 月 30 日・31 日・9 月 1 日、平成 24 年 8 月 29 日・30 日・31 日、平成 25 年 7 月 24 日・25 日・26 日に行った。研究代表者ととともに学習院大学大学院生などの協力によって、未整理史料の目録化とマイクロフィルムによる撮影を行った。明治 36 年と明治 40 年に東京帝国大学史料編纂掛は『大日本史料』編纂のために、高田専修寺所蔵史料調査を行ない、関係史料を東京に送らせ、後日送り返した。その際、史料編纂掛は

目録を作成し、その目録は現在も機能している。(資料番号 1~328)その後、昭和 38(1963)年に三重大学による史料目録作業が進められ、資料保管箱 11~39、100~106 の合わせて 36 箱分の目録が作成された。今回のプロジェクトによる目録化は、従来未整理とされた 29 箱分についての目録化の作業であった。以上の 3 回の大会実行と 3 冊の成果報告集刊行と各研究機関への送付によって、近世の天皇・朝廷研究の基盤形成に 1 程度の貢献を果たすことができたように考える。但し、『近世の天皇・朝廷関係史料集』(仮称)の刊行には至らなかった点は、今後の課題として残された。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

#### 〔雑誌論文〕(計 12 件)

高埜 利彦、江戸時代の宗教と朝廷の役割、学習院史学、査読無、第 53 号、2015、41 - 55

田中 暁龍、近世後期の公家処罰と身分移動 天保十年、樋口家一件を事例に、桜美林論考人文研究、査読有、第 6 号、2015、1 - 13

田中 暁龍、近世の天皇・朝廷研究の到達点と課題、歴史評論、査読有、第 771 号、2014、5 - 17

西村 慎太郎、近世公家家職の展開と内侍所神楽、歴史評論、査読無、第 771 号、2014、35 - 50

西村 慎太郎、近世天皇をめぐる研究動向と課題、人民の歴史学、査読無、200 号、2014、20 - 27

高埜 利彦、天保の改革について、歴史と地理、査読無、670 号、2013、1 - 17

田中 暁龍、中近世の禁裏小番と武家昵近衆、近世の天皇・朝廷研究第 5 号 第 5 回大会成果報告集、査読無、第 5 号、2013、3 - 23

田中 暁龍、近世公家の家内騒動と家臣統制、東京家政大学人間文化研究所紀要、査読有、第 6 集、2012、26 - 37

田中 暁龍、近世の武家昵近衆、桜美林論考人文研究、査読有、第 3 号、2012、76 - 92

西村 慎太郎、近世公家家職研究の展望と課題、国文学研究資料館調査研究報告、

査読無、第 32 巻、2012、25 - 34

高埜 利彦、静かな民主革命、史学雑誌、査読有、120 編 9 号、2011、36 - 38

西村 慎太郎、近世非蔵人の門跡肝煎 霊元院政期の梶井門跡を事例に、日本歴史、査読有、第 756 巻、2011、86 - 102

#### 〔学会発表〕(計 4 件)

高埜 利彦、江戸時代の宗教と朝廷の役割、学習院史学、2014 年 6 月 14 日、学習院大学

田中 暁龍、中近世の禁裏小番と武家昵近衆、近世の天皇・朝廷研究第 5 回大会シンポジウム報告、2012 年 9 月 15 日、学習院大学

田中 暁龍、近世の武家昵近衆、朝幕研究会、2011 年 10 月 17 日、学習院大学

西村 慎太郎、近世公家家職研究の展開と課題、近世の公家文書と学芸、2011 年 5 月 26 日、国文学研究資料館

#### 〔図書〕(計 9 件)

高埜 利彦、岩波書店、天下泰平の時代 シリーズ日本近世史、2015、244

高埜 利彦、春秋社、シリーズ日本人と宗教 4 勸進・参詣・祝祭、2015、273

高埜 利彦、春秋社、シリーズ日本人と宗教 1 将軍と天皇、2014、2 - 23

高埜 利彦、吉川弘文館、近世の朝廷と宗教、2014、477

田中 暁龍、山川出版社、近世朝廷の法制と秩序、2012、215

高埜 利彦 他、山川出版社、新体系日本史 15 宗教社会史、2012、492

西村 慎太郎、吉川弘文館、宮中のシェフ、鶴をさばく、2012、223

田中 暁龍、吉川弘文館、近世前期朝幕関係史の研究、2011、264

田中 暁龍 他、小径社、再検証 史料が語る新事実 書き換えられる日本史、2011、254

〔産業財産権〕  
出願状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等  
学習院大学 学術研究リポジトリ  
<http://www-cc.gakushuin.ac.jp/>

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

高埜 利彦 (TAKANO Toshihiko)  
学習院大学・文学部・教授  
研究者番号：90092254

##### (2) 研究分担者

田中 暁龍 (TANAKA Toshitatsu)  
桜美林大学・教職センター・教授  
研究者番号：30511852

##### (3) 研究分担者

西村 慎太郎 (NISHIMURA Shintaro)  
国文学研究資料館・准教授  
研究者番号：90383546